

## 山彦シンポジウムの予稿スタイル

山彦太郎（学部4年）†1

## The Proceedings Format for Yamabico Symposium

Taro YAMABICO (4th Year of the Bachelor's Program) <sup>‡1</sup>

知能ロボット研究室 坪内グループ (TBU-G)

**Keywords:** AAA, BBB, CCC

1. はじめに

山彦シンポジウムでは、内部資料として非公開の予稿集を作成します。発表者は、A4判の用紙に2ページから8ページの予稿原稿を作成してください。

【重要】学生の発表者は、必ず関連研究について述べて下さい。また、参考文献は必ず本文中で引用して下さい。例：本稿は、文献[1,2]を参考に作成しました。

### 3. 原稿スタイル

原稿を作成する際には、以下の条件を満たすようお願いします。このサンプルファイルでは、学術会議用 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2 $\epsilon$  クラスファイル `jsproceedings.cls` [3] を使用しており、書式に関しては対策済みです。

- 用紙サイズは A4 で、2 ページから 8 ページ。
  - 上下左右にそれぞれ 20 [mm] の余白を空ける。  
(偶数ページ・奇数ページに関わらず中央寄せ)
  - ページ番号は製本作業時に追記するので、提出原稿には  
ページ番号を記載しない。
  - 先頭のページの右上には、2025 年度 第 3 回 山彦シンポジウム [2026/02/20-02/21 オンサイト開催] と記載する。

#### 4. LATEX 2 $\varepsilon$ による論文執筆

学術会議用 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X 2 $\epsilon$  クラスファイル jsproceedings.cls [3] の使用を推奨します。使用方法の詳細は、文献 [3] を参照してください。

論文タイトルを書く際には、jsproceedings.cls で定義した以下の独自のコマンドを用いてください。

- \title{} コマンド：日本語タイトル
  - \author{} コマンド：日本語著者名
  - \authorrefmark{} コマンド：著者の日本語所属マーク
  - \etitle{} コマンド：英語タイトル
  - \author{} コマンド：英語著者名
  - \authorrefmark{} コマンド：著者の英語所属マーク
  - \affiliation{} コマンド：研究室の所属など

- \abstract{} コマンド：概要
  - \keywords{} コマンド：キーワード
  - \authorref{text}{\{}{\}} コマンド：著者の日本語所属名
  - \eauthorref{text}{\{}{\}} コマンド：著者の英語所属名

## 5. 原稿の提出方法と期限

ウェブ上の予稿提出ページからアップロードをお願い致します。

2025年度第3回山彦シンポジウム

[http://www.roboken.iit.tsukuba.ac.jp/event/  
Sympo/25-3/](http://www.roboken.iit.tsukuba.ac.jp/event/Sympo/25-3/)

予稿の投稿〆切は 02/13 (金) 必着となっております。

〆切直後に印刷作業を行ないますので、必ず間に合わせて頂くようお願い致します。

## 6. 2025年度第3回山彦シンポジウムについて

- 1) 日時  
2026年02月20日(金)～02月21日(土)
  - 2) 場所  
02/20: 筑波大学 総合研究b棟1階0110 公開講義室  
02/21: 筑波大学 総合研究b棟1階0110 公開講義室  
〒305-0006 茨城県つくば市天王台1-1-1
  - 3) 参加費  
無料
  - 4) 発表時間、発表件数(予定)  
発表時間は、1件につき15分から30分程度。発表件数は60件程度を予定。
  - 5) プログラム  
参加者が決まり次第、連絡致します。シンポジウム期間中、懇親会を開催致します。

参考文献

- [1] 山彦 太郎：“山彦シンポジウムの予稿スタイル”，2006年度第1回山彦シンポジウム予稿集，2006.
  - [2] 山彦 太郎, 山彦 次郎, et al.: “山彦シンポジウムにおける活動”，日本ロボット学会誌, vol. 25, no. 1, pp. 100–110, 2007.
  - [3] 原 祥堯, 坪内 孝司：“学術会議用  $\text{\LaTeX} 2\epsilon$  クラスファイル `jspceedings.cls` を用いた論文執筆”，2014年度山彦セミナー資料, 2014.

<sup>†1</sup> 筑波大学 理工学群

<sup>‡1</sup> Undergraduate School of Science and Engineering,  
University of Tsukuba